

「(仮称)コミュニティふらっと高井戸西」の整備に向けた取組の一旦休止に関する  
説明会及び意見交換会

対 象：ゆうゆう高井戸西館利用者

参加者数：15名

開催日時：令和4年12月23日 午前10時00分～11時00分

場 所：ゆうゆう高井戸西館

意見	
1	ゆうゆう館に関する施設再編整備計画について
○様々な活動場所がある中で、ゆうゆう館を利用している理由	
1	施設が移転（転用）されることは聞いていたが、3年程度休館し建物が解体されることは初めて聞いた。
2	多世代が利用できる施設になるということは知っていた。
3	ゆうゆう高井戸西館の再編整備については知っていたが、区全体で計画として取り組んでいることは知らなかった。
4	機能継承について聞いていた。（広報、ゆうゆう館職員、老人クラブの会合）
○ゆうゆう館の再編についてどう思いますか。	
5	今後も、様々な活動を行い、友人との交流を深めたいが、高齢者にとってはあちこちに出向いて活動をするのは難しい。杉並区には高齢者が多いため、小規模であっても、身近で活動ができる場所（10分圏内）を確保してほしい。
6	古い施設を更新することは必要だと思う。
7	再編する際は、現在の活動が継続できるかが重要。
8	耐震工事をしているのに壊してしまうのは勿体ない。耐震性に問題があるなど、合理的な理由が無い限り、取り壊すことに納得ができない。区民の財産を減らさないでほしい。
9	再編整備計画を進める際には、ゆうゆう館機能を継承し、代替活用場所の確保も行うと聞き、安心した。
10	ゆうゆう高井戸西館の土地は、区が前所有者から寄付を受けてゆうゆう館、児童館を整備したもののだが、勝手に他の施設に転用しても良いのか。もっとこの場所の歴史を調べた方がよい。
11	使用可能な施設を取り壊すという前区長の考え方を捨て、慎重に計画を立ててほしい。
12	ゆうゆう高井戸西館の建物は築50年程度というが、築年数だけでなく耐震性等も踏まえて取り扱いを考えてほしい。
13	情報提供の頻度を高くしてほしい。計画が決定した段階ではなく、検討の段階から意見を聞いて欲しい。部屋割りや機能についても要望を聞いて欲しい。
14	機能移転・現地改築の際には、現ゆうゆう館がいつまで使用でき、コミュニティふらっとがいつから使用できるようになるのか明確にしてほしい。
15	この場所（ゆうゆう高井戸東館）が便利だから来館している。位置が変わらないのであれば、建て替えてもらって構わない。
16	コミュニティふらっと・代替活動場所においても、申し込み方法は変えないで欲しい。インターネットは上手に使用できない。
17	全ての集会所がコミュニティふらっとに集約されるのか。
18	高齢者は予約を取る作業を忘れる可能性がある。一方で若い世代はスマートフォン等で簡単に予約を取れる。このような点も踏まえた高齢者への配慮が必要である。
19	無料だからこそ活動意欲が湧いてくる。有料は活動意欲の低下につながる。
20	ゆうゆう高井戸西館は杉並区の端に位置しているため、利用者が少ない。その分、若い世代の利用も受け入れてもよい。
21	今の活用が継続してできるのであれば、多世代型施設でもよい。
22	色々な方が利用できる施設の方が良いと思う。私たちは先が長くないため、若い世代も気軽に利用できる施設を作ってほしい。
23	様々な年代が集まる施設はよいと思う。
24	誰が利用するかは、運用に関するこのため、多世代型施設として開館し、「運用していく中で、問題があれば改善する」という形でよいのではないかと。
25	ゆうゆう館の利点は、高齢者のみが来館し、優先的に使用できる点である。

26	子どもと同じ環境で活動できることは望ましい。子供たちの成長過程において、「このような高齢者もいる」という学びは必要である。
27	若い人との交流の機会を作ろうとする取り組みはとても良いことである。実際に施設内で交流が実現するかが重要であるため、交流の実現に向けて取り組んでほしい。
2 ゆうゆう高井戸西館の今後について	
○新しい施設にはゆうゆう館のどんな機能が継承されれば利用したいですか。	
1	ゆうゆう館は収納が少なかった。
2	有償であっても活動備品を置く場所があるとよい。
3	ネット環境 (Wi-Fi) がほしい。
4	コミュふらにするのであれば、トレーニングルームを作ってほしい。
5	今の施設は音漏れが心配である。コミュニティふらっとには防音対策を行ってほしい。
6	ヨガ団体なので、和室が欲しい。和室を作れば、小さな子供も親と遊ぶことができる。
7	和室を使用していない団体からすると和室は必要とは思わない。
8	団体で月1回料理をしているため、コミュニティふらっとにも料理ができる部屋があるとよい。
9	膝が悪く地べたに座るのは難しいので、和室ではなくラウンジのような椅子で十分。
10	トイレに温水便座をつけてほしい。
11	マッサージ器や電位治療器についてはあっても無くてもよい。
12	使用料は無料が望ましい。
13	午後枠が2時間だと少し使い勝手が悪い。
14	活動場所が遠くなることは望ましくない。
15	今まで通り活動できるのであれば問題ない。
16	ゆうゆう館の名称にこだわりはない。
17	ゆうゆう館には活動備品 (輪投げ、囲碁・将棋、カラオケ) が揃っていると同時に、受付の職員がルールを徹底している。
18	ゆうゆう高井戸西館の南側の庭が大変人気であるため、大切にしてほしい。
19	コミュふらは何階建てになるのか。
○ゆうゆう高井戸西館を改築する間の代替活動場所についてはどう考えますか。また、もし、新しい施設が別の場所にできるとしたらどう思いますか。	
20	富士見ヶ丘小学校の位置であれば通うことができる。15分程度は徒歩で向かうことができる。ただし、押し車を使用して来館している方の中には、通えなくなる人もいると思う。
21	代替期間の身であれば、富士見ヶ丘小学校への代替は仕方がないと思う。
22	富士見ヶ丘小学校への代替は特に問題ない。
23	東八道路を超えて施設に向かうのは怖いため、富士見ヶ丘小学校に通うのは難しい。
24	富士見ヶ丘小学校は少し遠く感じる。
25	富士見ヶ丘小であればそこまで遠いとは思わない。
26	富士見ヶ丘小学校に活動場所が変わる場合、団体メンバーの中には距離が遠くなってしまいう人もいるため利用しないと思う。
27	富士見ヶ丘小学校に活動場所が移っても利用したい。
28	代替施設までの距離について懸念はないが、小学校の設備ではトイレ、机などが小さくて利用しにくいのではないかと。教室も高齢者向けではないため、使いづらいのではないかと。
29	富士見ヶ丘小学校では料理の活動はできないため、代替期間は活動を休止することになると思う。
30	高井戸地域区民センターを代替活動場所として、無料で使わせてほしい。
31	新しい施設が別の場所に建設されると通うのが難しい。
32	建て替えは現在地以外考えられない。
33	新しい施設を新たにできる富士見ヶ丘小中学校に併設させてはどうか。
34	現地改築がいい。2・3年の休館期間については、他の場所でも一時的な措置として納得できる。
35	移転場所が遠くなる場合は活動頻度が減ると思う。
36	移転により遠くなる人もいれば、近くなる人もいるため、良し悪しをつけられない。

37	距離の感じ方は人それぞれである。ただ、最初は別の場所に通うことについて反対意見があっても、長年通っていく中で慣れていく可能性もあると思う。
3	その他の意見
1	意見交換会のやり方はいいと思う。
2	計画の立案の段階でこのような会を開催してほしかった。
3	このような説明会はよいと思う。以前高井戸区民事務所にあった和室から十分な意見交換の機会が与えられずに追い出された。
4	計画を進める合理的な理由などをみんなで話し合わなければいけない。建て替えをするのであれば、建築の専門家の声も聞きたい。

ゆうゆう館協働事業者意見交換会

対 象：ゆうゆう館協働事業者（運営委託法人）

参加者数：18名

開催日時：令和5年1月18日 午前10時00分～11時20分

場 所：杉並区役所

	意見
ゆうゆう館に関する施設再編整備計画について	
○ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの機能継承についてどう思うか。	
1	現在でもウィークエンド講座等で多世代交流を図っている。多世代型施設よりも高齢者単独施設の方がよい。
2	コミふらの詳細について私自身十分に把握できていない。
3	ゆうゆう館は高齢者にとって自分たちが努力して活動していく場所である。このような場が地域に存在することは望ましく、コミふらにするのではなく、ゆうゆう館で多世代交流が活発化する施策を講じる方がよい。
4	コミふらでは抽選会があるそうだが、高齢者は抽選会で若い世代と部屋を取り合うことに危機感がある。抽選会で落選した場合どうすればよいのかと不安な気持ちを持っている。
5	ゆうゆう館は高齢者が安心して利用できるため望ましい。
6	どのような形で多世代交流が行われていて、どの程度の参加者がいるかなど、コミュニティふらっとに対する区民への認知度が低いいため、もっとPRをすべきである。
7	高齢者専用施設がよいかどうかはわからないが、当館は単独館であり十分な設備が整っている建物であるため今の運営がよいと思う。
8	ゆうゆう館の建物は老朽化しており、新しいコミふらの施設はとても良いと思う。ただ、今ゆうゆう館では道具を多数保管してある。このような側面からも、ゆうゆう館はただの貸室ではないが、その人たちはどのように活動を継続すればよいのか。
9	高齢者単独施設がよいか多世代型施設がよいかは何とも言えない。どちらもよいと思う。ただ、今度区内の高齢者は増加するが、コミふらで吸収しきれぬのか心配。現に、当館では現在でも高齢者団体が増加している。
10	そもそも現在のゆうゆう館の利用形態は現在の社会情勢に即していないのではないかと。近年では60代は仕事をしており、ゆうゆう館の利用者は70歳以上が大半である。
11	多世代交流はよい取り組みであるが、高齢者への寄り添いがコミふらでも行われているのか。高齢者と若者が一緒に空間にいれば交流が生まれるわけではない。交流が生まれるにはソフト面も大切である。
12	高齢者は身体的機能が低下しており、子どもと同じ空間にいと事故が発生する可能性がある。結果的にその危険を避けて、よれよれの高齢者が施設に行かなくなる。コミふらは元気な高齢者のみが集まる施設になるのではないかと。そのため、高齢者単独施設が望ましいと思う。
13	ゆうゆう館では輪投げ等の活動物品を保管しているが、高齢者は物品をコミふらまで持っていけないと思う。
14	当法人は多世代交流をNPO法人設立時のミッションとしている。ゆうゆう館は協働事業を通じて多世代交流ができるため受託している。そもそもゆうゆう館の受付業務は協働事業実施事業者が付属で担う業務のため、メインの業務ではない。手厚い高齢者対応は敬老会館時代からの名残であり、いわば受託時の本来の目的（協働事業の実施）とは異なるものであるが、敬老会館時代からゆうゆう館を利用している方はそのような待遇を求めて来館しているのが現状である。
15	多世代交流を考える際に、60歳代～90歳代を同一の高齢者層として捉えるのは広すぎる。そのため、当法人が運営するコミふらでは75歳以下を多世代交流に巻き込む高齢者層とし、それ以上の方は敬老会館時代の名残がある方として多世代交流を積極的には進めず、ゆうゆう館の利用方法に近い利用を継続してもらっている。この方々は、多世代交流の良さを伝えても、敬老会館の形がベストだと信じて疑わない年代である。
16	コミふらでは、子どもがラウンジを利用していたとしても、高齢者との関わりはない。子供に話しかけるような若い高齢者（60代など）は子どもが施設を利用する日中は仕事をしている。
17	コミふらにはコインロッカーがあるとよい。また、高齢者と子供の動線が分かれているとよい。
18	マッサージ器は利用者が少ない。
19	多世代交流が行われるのはベストであるが、ゆうゆう館からコミふらになった際のプラス面・マイナス面が具体的にわからないと賛否が言えない。
20	（協働事業について参加者はどう思っているか。）来ている人は不満がないから来ている。不満がある人はそもそも参加しない。

21	コミふらでは区から自主事業の運営予算は一切出ないが、開催回数や内容等、企画は全て自由に行うことが出来る。コミふら成田では基本全ての事業がどの世代でも参加可能。
22	コミふら化には賛成。多世代が利用できる施設のほうが良い。ゆうゆう館に来るときは軽装（ジャージ）だったが、コミふらになり色々な方たちが来る施設となったため、化粧をしてくるようになった人もいる。
23	コミュニティふらっと転用後もゆうゆう館で行っていた活動が継続してできるのが大事。
24	高齢者の心配事としては、これまでどおり利用枠が確保できるのか、1日当たりの利用コマ数が3から4に増えることで、利用時間が減るのではないかとといったことがある。ゆうゆう館の利用枠は3枠で、コミふらだと集会施設なので4枠となり時間が細分化されるが、前延長か後延長を活用すれば3時間弱は場所を確保できるのであまり問題ではない。
25	馬橋については、保育園と併設だった時代と場所が変わっているが、場所に移転について、利用者からの苦情はあまりない。（仕方ないよね、という感じ）
26	自主事業については、ゆうゆう館は高齢者施設という印象が強いことから、それを払しょくするために子どもたちが来てもらえるような工夫をした。その中で高齢者の発表会などの時間を作り多世代が交流する機会とした。
27	再編の必要性は理解できる。施設が新しくなって喜んでいる人もいる。
28	高齢者に限らず、同世代つながりをどの世代も求めている。このつながりが大事。
29	イベントの実施も大事だが、一過性のものとなってしまわないか不安。継続してつながりがあることが大事。
30	再編については賛成だが、移転後も継続してゆうゆう館が果たしてきた居場所（気軽にこれる、第2の家）になるのか不安。（事業者も区民も）
31	今までのゆうゆう館の良い面（気軽に行くことができる雰囲気）を失わずに機能の継承をしていくことが重要。
32	高齢者は一度行かなくなると足が重くなるので、きちんと来てもらえることが大事。
33	協働事業として「寺子屋」というものを行っている（高齢者子どもたちに勉強を教える）。
34	コミふらには貸館のイメージがある。
35	多世代交流が大事だが、それぞれの世代の交流・居場所を確保することが前提。
36	みんなで使える施設＝多世代交流ではない。それぞれの年代のスペースがあって、そこから交流を始めればよい。近隣の保育園と連携し事業やイベント行うなど、コミふらにならなくても既に多世代交流はできている。誰でも使えると高齢者は遠慮してしまうのではないか。
37	当館は駅から近いから良い。老朽化にもあたらない。複合化するから廃止ということは非常にもったいない。だからいろんな区民から反発があるのだと思う。跡地活用が決まっていないという点も反発を生む大きな要因であると思う。
38	ゆうゆう館は利用者とのコミュニケーションを大事にしており、単に部屋を貸すだけの施設とは異なる。まずは施設に通ってもらうことが大事。
39	利用者との関係性はコミふらになっても継続していくべき。
40	高円寺東館は築40年以上。団体数は50以上いる。
41	再編に反対では無いが、高齢者は施設の古さに慣れており、環境の変化に対応することが難しいことがある。
42	高齢者専用の施設で良いのかという疑問があり、子どもたちとのイベントやワークショップにも力を入れている。
43	ゆうゆう館の存在を地域の方に知ってもらうために小学校でイベントをやったりしている。
44	ゆうゆう館は高齢者専用の施設というのは昔のイメージで、今はそんなことはない。ゆうゆう方南館は児童館と併設しているが、イベントでの交流と日常的な交流、どちらもある。
45	ゆうゆう館は、高齢者にとって「他の世代とのつなぎ役」である。
46	他の施設と併設していない施設では、意識的にきっかけをつくらなければ、多世代との交流は難しい。当館では、併設施設がないため、周辺の民間保育園と交流をしていたが、コロナ禍になり難しくなってしまった。
47	当館ではコロナ禍で、児童館の子どもたちとお手紙交流をした。高齢者も子どもたちとつながっていると感じることができたようであった。
48	同じテーマさえあれば、ゆうゆう館であっても多世代の交流を深めることはできる。
49	ゆうゆう館には3～40年以上通っている人もいるので、ゆうゆう館を「自分たちの施設」と思っている人もいる。ゆうゆう館で長い時間をかけて意識的に他の世代向けのイベントも実施するようにしたところ、所有の意識も徐々に薄れ、他の世代に対する抵抗もなくなってきたと思う。
50	コミュニティふらっとでは、「ゆうゆう館でできていたことができなくなった」という不満を未だにもっている人もいる。
51	今から意識的に多世代型施設のイメージや感覚をつかんでもらえるとよい。

52	高齢者に疎外感を感じさせないようにする。
53	高齢者を単なる受け手として扱うのではなく、担い手として動いてもらおうと、それが高齢者の生きがいにつながる。高齢者が主体的に活動できる場を大切にする。
54	高齢者が生きがいを見つけられるようなコミュニティふらっとになるとよい。
55	多世代交流の実現には仕掛けづくりが大切。それは対話によって生まれる。
56	コミふら東原は、地域の人たちに利用者との関係をつなげてもらったことで、現在もうまく運営できている。受託事業者がどのように地域と関わっていくかが大切である。
57	高齢者は床に座ることができる人が少ないので、和室は必要ないと思うが、茶室をほしがる人はいるかもしれない。ただ、立礼（リュウレイ）式の茶道（椅子に座ってやるもの）もあるので、代用はいくらでもできる。
58	コピー機がないのはクレームに繋がるので、あった方がよい。
59	マッサージ機は特定の人だけが利用していると感じる。「あるべきもの」というイメージをもっている人がいると思う。コロナ禍で給茶機が使えなくなったが、それも受け入れられつつあるので、なくなっても次第に受け入れられるのではないか。
60	異世代が同じラウンジで過ごすのは難しい。コミふら東原では利用時間に制限をかけて、特定の集団がラウンジを占領することがないようにしている。
61	一般和室の利用人数は館によって、多いところもあれば少ないところもある。
62	高齢者は通い慣れた施設がよいと感じている。特に認知症の症状がある人は、馴染みのところに通い続けるので、場所は同じであることが大切。
63	複数のゆうゆう館を併合するのはやめてほしい。同じように活動できないと思ってしまう。
64	高齢者は知らないことへの不安の意識が強く、情報がアップデートされるのにも時間がかかる。丁寧な説明・対話、プロセスが大切。事業者が丁寧に「コミふらでも今の活動が継続できる」と説明することで、理解が得られたケースもあった。
65	もっと早く意見交換の場を設けていれば、高齢者に対して、多世代交流に向けた意識付けができたのではないか。
66	高齢者には「みんなの力で良い施設をつくる」という気持ちをもってもらい、区・事業者も「一緒に良い施設をつくってほしい」という姿勢を大切にする。そうすれば、気持ちよくコミふらに移ることができると思う。区の説明も「新しい施設ができましたので、こちらに移行してください」ではなく、「新しい施設で高齢者の皆さんの力も借りながらこんな施設にしていきたい」と巻き込むことで高齢者もやりがいを感じてくれる。
67	協働事業に孫をつれてくる高齢者もいた。そのときは周り的高齢者も一緒に面倒を見てくれる。
68	当館では、コロナ前は「みんなで食堂」を実施しており、多世代でご飯を食べていた。多世代での交流とはいえ、同じスペースにずっと一緒にいるということではなく、食事が終われば各々の世代に分かれて活動するなど、一つの施設でうまく切り分けができたと感じた。
69	世代ごとの切り分けは課題でもある。高齢者と子どもと一緒に活動してほしくても、結局は各世代で別れてしまうので、一緒に活動できるような仕組み（例えばゲームなど）が必要。
70	「他の世代が実施するイベントには行きにくい」と感じる高齢者も一定数いる。多世代交流の難しさを感じた。
○コミュニティふらっとの管理運営業務について	
71	一法人が受託できるコミふらの数に上限はあるのか。
72	（コミふらになることに対する不安はあるか）漠然としていてまだわからない。
73	まだピンとこない。委託と指定管理の違いもわからない。
74	コミふらではさざんかねっと業務が増加するなど、現在のゆうゆう館で働く80歳のスタッフでは対応が難しい面があり、新しい雇用も必要になる。一方で、2人体制になるため、不安は少ないかもしれない。
75	コミふらではどのような業務が増えるのか。
76	私のNPOのミッションは引きこもり支援のため、コミュニティふらっとで（受付業務が）二人体制になることは魅力的である。そのため手を挙げると思う。
77	当法人の理事の間では現状が最も望ましいという意見で一致している。そのため今の時点ではコミふらの受託には手を上げないだろう。
78	新たにコミふらを受託することは考えていないが、当館がコミふらになる場合は受託も検討する。
79	コミふらの受託に手を上げるかどうかはまだ何とも言えない。
80	コミふらを受託すれば若い世代への窓口が広がるため、受託に手を上げる。
81	コミふらの受託に手を上げる。
82	ゆうゆう館受託経験のない新しい業者であっても、一から経験を積み上げていけば、地域との交流も含め様々なことが行えるようになると思う。

83	私たちが最初は何もわからないところから積み上げていったため、新しい業者でもそれは可能である。
84	杉八は図書館との複合化になるため、図書館業務が業務内容に入ってくると参加は難しいかも。(JVの可能性はあるとも言っていた)
85	今川図書館とゆうゆう今川館は事業者が図書館とゆうゆう館で別だが、連携はしっかりとれている。
86	施設の規模感にもよるが、今のコミふらくらいだったら手を上げたい。
87	複合化する施設が何なのかも重要。集会施設とゆうゆう館だったら良い。また、複合化する施設数が多すぎると1つの施設で受けきれぬか不安。(運営面で不安)
88	ゆうゆう館の受託事業者は、公益法人(NPO法人、社会福祉法人)に限定されているが、なぜコミュニティふらっとではその縛りがなくなるのか。公益法人は、株式会社に比べると競争力が劣ってしまう。
89	コミュニティふらっとは、ゆうゆう館の性質に加え、集会施設の性質もあるため、ゆうゆう館よりも業務量が増える。コミュニティふらっとを運営するにあたっては、株式会社も公益法人も同じように感じる。むしろ、やることの規模が大きくなるため、公益法人自体がアップデートしていかなければならないと思う。
90	受託事業者選定に当たっては、地域のことを理解している人や団体の視点が入るように、応募事業者の地域での活動にも目を向けてほしい。
91	地域で活動してきた団体を、運営の協団体として入れることはできないか。公募の条件に入れるなども検討してほしい。
92	当法人は2つのゆうゆう館を受託しているが、他のゆうゆう館と比べて健康麻雀の団体が多い。コミふらになったあとの扱いが心配である。
93	時間区分が3枠から4枠に変わる事や、集会室等の予約の取り扱いが心配。
94	パソコンを扱う業務が増えるとのことで、年配の職員が働きにくくなってしまう。働いている高齢者も、生きがいを感している人がいる。
自由意見	
1	建物が新しくなったときに、スタッフが顔見知りであると高齢者は安心する。
2	高齢化が進展し、寿命が延びてくると、高齢者間の交流も必要になってくるのではないか。(60代と90代の交流など)
3	和室(畳の部屋)については、足腰に負担がある。
4	高齢者優先枠を8枠にしたのは非常に良い。無制限にとれるようにすると麻雀だけになったり、利用者が固定化するのでもいい手段だ。
5	コミふらにおいて、利用者との関係性が希薄になってしまうことが不安。
6	ゆうゆう館と集会施設の複合化だと、ゆうゆう館での経験がそのままコミふらで活かせるので、ゆうゆう館利用者の不安も解消されると思う。事業者側もすべて新しいことをやるわけでは無いので、負担を感じにくくなる。
7	ゆうゆう館については、目的外使用が可能となり、現状でも多世代が利用できる施設になっているので、コミふらとあまり変わらない気がする。
8	改築等の際の場所の移動と休館を比較した場合、活動が休止となる休館(6か月以上)は厳しい。
9	高齢者専用施設で運営してきたから高齢者の気持ちがわかる。企業が運営するコミふらではどうなのだろうか。

ゆうゆう館従事者意見交換会

対 象：ゆうゆう館受付業務従事者

参加者数：37名

開催日時：令和5年1月19日 午前10時00分～11時20分

場 所：杉並区役所

意見	
1	区立施設再編整備計画に対するゆうゆう館の現状と課題
○ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの機能継承についてどう思うか。	
1	再編については、まだ自分事になっていない。
2	保育園とは併設施設である中、分断されているとは思っていない。多世代交流が全くないわけではないが、頻度はそこまで多くない。
3	高齢者専用施設がいいという利用者の声はよく聞く。
4	個人としては、設備の老朽化もあり、その度に修理するということであれば施設を一度更新した方が効率的だと思う。
5	コミふらの整備には賛成。（高齢者施設からの転換は良い考え）
6	地域ごとに30～40施設コミふらを作ることも良いと思う。
7	コミュニティふらっとを知らない人が多い。もっと宣伝していくべきだと思うし、宣伝の仕方が大事。
8	多世代交流の考え方は理解できる。
9	堀ノ内松ノ木館の周辺には集会施設が少なく、学校の会議室を借りるなどに当たっても予約が取りづらいと感ずることがある。
10	利用者視点でいうと、別の施設になっても今まで通りの活動ができるのかが重要（部屋の大きさも含む）。そこがクリアできれば問題ないと思う。将来の状態が見えない中で不安になっている。
11	コミふらの考え方は理解できるが、認知度が低いと思う。区として周知にもっと力を入れてほしい。
12	施設の老朽化、限られた財源などの考え方からみれば単独施設ではなく、多世代が使える施設が良いと思う。再編の考え方は賛成。
13	運営の部分で見ると、今までのようにワンオペで回せるか不安。工夫が必要。
14	利用者からはコミふらへの移行に反対の意見が多い。利用者からは納得を得ることも大事だが、運営側（事業者・従事者）の納得を得ることが大事だと思う。それができれば利用者に対し、運営側から説明することができる。
15	高齢者優先利用枠が8枠というのは少ないのではないかと（1団体当たりであることを説明）。
16	保育園との交流としては、一緒にゴーヤを植えたりする交流事業をやっている。
17	施設に来ることが高齢者の健康維持やフレイル予防につながる。
18	コミふら（馬橋）は少し入りづらい雰囲気を感じる入り付近に「散歩の途中に立ち寄りませんか」など、もっとオープンに入りやすくする工夫が必要。
19	荻窪館は協働事業の稼働率、参加率がゆうゆう館の中で一番高い。
20	隣の公園を利用していた親子が雨の日にゆうゆう館はだれでも入れるんですかと聞かれたことがある。高齢者専用施設である多世代利用の施設ならそのようなことはないので、コミふらの考え方には賛成。
21	コミュニティふらっとへの移行は賛成だが、高齢者と若年層で運動量が違うので、怪我をさせたり、怪我をしたりの原因になるのではないかと不安に思う。
22	ゆうゆう浜田山館を利用していた利用者からは、コミふらになってから部屋が狭くなった、受付の対応がゆうゆう館の時と違う、などの声をきく。
23	ゆうゆう館があるからこそ、高齢者は社会との接点ができている。いきなり上から多世代交流という話が出てきて、その方向に向かってしまっており、利用者は不安を感じている。
24	高齢者は他の世代に比べて意見を出しにくいので、しっかり汲み取ってほしい。
25	コミュニティふらっとの従事者から、高齢者は追いやられていると感じると聞いた。子育て世代と高齢者が対等に話をして関わるとするのは、難しいと感じる。コミふらで本当に多世代間の交流ができるのか、疑問である。

26	コミふらでは、高齢者だけが優先枠を設定されていることについて、他の世代からの無言のプレッシャーのようなものを感じる。
27	他のコミふらでは、自分で道具を持ってこない限り、麻雀をすることができないという話を聞いた。施設に活動備品が置いてあり、今までどおりに活動できるというのが、機能継承の大前提である。
28	ラウンジは一般和室と同じ扱いになるのか。ゆうゆう館では一般和室で囲碁をしている人、テレビを見ている人、マッサージチェアに座っている人など、様々である。そのような人たちが同じように活動できるようにしてほしい。
29	ゆうゆう館では、一般和室の利用者にも囲碁・麻雀の道具を貸し出している。コミふらでも同じように貸し出しはできるのか。
30	マッサージ機やテレビを見るためだけにゆうゆう館に来ている人もおり、そのおかげで体調がよくなったという話も聞いている。憩いの場所がなくなってしまうのは、高齢者に対して親切でないと思う。
31	テレビは特定の人が好きなものを見ているだけで、みんなが好きな番組を見られるわけではない。あってもなくても同じであるように感じる。
32	協働事業は、学び、健康の場である。
33	団体活動は既存のコミュニティや友人と行うが、協働事業では新たなコミュニティをつくることができる。
34	多世代型施設として様々な方に利用して頂くのはよいと思う。ただ、まだ実感がないためよくわからない。実際に多世代型施設になる場合どのような施設になるのだろうか。
35	子供と高齢者では声のトーンや行動などが全く異なる。そのため、互いに会話がうるさいと感じると思う。結果的に落ち着く空間にならず、高齢者が身を引くこととなる。
36	ゆうゆう館の利用者は60代～90代まで幅広くおり、すでに親子レベルの年齢差での適度な多世代交流が実現している。多世代型施設と高齢者専用施設のどちらが望ましいかというよりも、すでにゆうゆう館内で最適な多世代交流が実現している。また、高齢者にとって居心地の良い居場所は今後も必要である。
37	60代で仕事を継続している利用者曰く「仕事終わりの時間で何かしたい。しかし、手続きやシステムなど色々面倒なことが多い場合参加が億劫になる。近場でふらっと出向き、使用できる施設であってほしい」とのこと。ゆうゆう館に対してすらこのように言うため、コミふらだとさらに億劫になるのではないかな。
38	多世代が使用する施設があることはよいことだが、すべてをそうする必要はないのではないかな。
39	普段若い世代の感覚を意識する機会が少ない。そのため、若い世代なぜそのような行動をするのかななどについて理解することが出来ない場合が多い。高齢者にとって若い人の感覚に触れる機会がある方が望ましい。ただ、コミふらにはゆうゆう館の利用者を集約することが出来るだけの部屋があるのだろうか。
40	今川館はゆうゆう館の中でも最もコミふらに似ている施設である。(図書館と併設であり行き来がしやすいため)このような今川館ですら一般の利用者は少ない。コミふらにしたとしても若い世代は日中仕事や学校があるため今と利用状況は変わらないと思う。
41	老朽化により建て替えが必要というのであれば、建て替えた後なぜ新しい建物をゆうゆう館の名のままにできないのか。多世代交流は年に1回2回ゆうゆう館で実施する地域交流会がちょうどよい。
42	ゆうゆう館について60代の方への周知が足りていない。周知不足のために利用者が減少しているのに、利用者減少を理由に他の施設に転用すべきではなく、まずはやるべきことをやってほしい。
43	既に協働事業で子供と高齢者の交流が出来ているため、現在の形を継続するのではダメなのか。ゆうゆう浜田山館からコミふらに移った団体に話を聞いたところ「コミふらでは活動物品を棚の高いところに自分たちでしまわなければならないで大変だ。ゆうゆう館では手伝ってくれていたのに」といっていた。高齢者には情報弱者などの様々なハンデがある。このような状況も考慮しなければならない。
44	コミふらにするのであれば、施設の中に高齢者担当が常駐しているとよいと思う。
45	ゆうゆう館でもやり方によっては多世代交流を実現することは出来るのではないかな。
46	高円寺南館では、コミふらになると駅から遠くなるため通うことが出来ない方がでる。また、団体の他メンバーがこれなくなるため、活動をしたくても団体として継続が出来ない方もいる。高齢者施設は駅から近い位置にあるべきである。
47	土足の施設は使いづらい。土足で歩いた床にもものを置けなくなる。一方で高齢者の中には畳に座ることが出来ない方も多いため、机やいすも必要である。
48	今川館では土足については好評である。
49	ラウンジをつくったとしてもTVやマッサージ器を設置しなければ、ゆうゆう館の談話コーナーの機能は継承できない。
50	ゆうゆう館の協働事業は高齢者のレベルにあった事業が展開されている。そのため、一般のパソコン教室やジムの体操にはついていけないが、協働事業には参加できる高齢者がいる。高齢者のレベルにあった事業を展開することは高齢者にとって重要である。

51	今川館ではフラダンスのレッスンに小学生が参加していたこともあり、協働事業の中での多世代交流は可能である。
52	私自身コミふらについて詳しく知らないが、同じように高齢者もあまり知らないと思う。
53	高円寺南館での説明会について、移転することが前提で説明されたことについて利用者間で不満が広がっている。今後は計画の段階で話を聞くようにしてほしい。
54	いくつの施設がコミふら40箇所に集約されるのか。
55	部屋の数、面積は数字として増えるのか、減るのか。
56	多世代交流について、コロナウイルス、感染症の面で不安を感じる。現在コミふらでは、こういった形でイベントを実施しているのか。
57	コロナウイルス等の感染症の問題を除けば、高齢者“専用”施設の必要性は感じていない。
58	マスクについてゆうゆう館では着用を義務付けているが、コミふらではどうなのか。
59	協働事業について永福館ではほとんどの事業で定員が埋まっていて好評である。コミふらの自主事業についても、ニーズの把握が大切だと感じる。
60	マッサージ機、電位治療器については、団体活動の前後に使用する人が多いが、それだけを目的に来る人もいる。
61	ゆうゆう馬橋館からコミふら馬橋になって、1人で一般和室を利用していた人で来なくなった人はいる。
62	和室について、高齢者は足腰が悪い人が多く椅子を設置して使用しているため、和室は必須ではないと感じている。
63	和室があることで安心感を感じている利用者は多い。
64	場所は変わっても活動場所があるということが重要だと思う。その際には、コミふらについての丁寧な説明は必要。
65	高齢者にとって活動を継続して行くことは大切。ゆうゆう館からコミふらになる際に期間が開くようなら代替施設は必須。
66	ゆうゆう阿佐谷館からコミふら阿佐谷への移行は、場所が変わらなかったため、活動していた100団体のほとんどが移行できた。一方、下高井戸館はアクセスが良くないため、近隣に住んでいる高齢者がメインで利用している。高齢者の中でも80代～90代の利用者が多いため場所が変わると活動を継続できる利用者は少ないと思う。
67	ゆうゆう西田館が移転したときには、場所は200～300mしか離れなかったが、1500人いた利用者は半分になった。準備期間の4ヶ月で体調を崩した高齢者も多かったため、コミふらになる際は、準備期間も活動が継続して行えるように工夫した方がいいと思う。
68	コロナの関係でゆうゆう館が3ヶ月間 休館した時も その間に病気になってしまう利用者や、亡くなってしまいう利用者もいた。高齢者にとって（期間を開けずに）継続的に活動を行うことはとても大切。
○コミュニティふらっとの運営について	
69	私たちはサービス業だと認識してやっている。施設を貸すだけではもったいないので、管理者側からの声掛けなどコミュニケーションの継続、関係性の維持は重要。
70	サービス業でもあり区の施設でもあるので、公平に接するという意識も必要。
71	方南のプロポーザルへの参加に向けた準備をしている。
72	ゆうゆう館の行っている声掛けの文化は重要なので、そこは継続していきたい。ゆうゆう館の持つ居場所機能は継続していくべきものだと思う。
73	コミふらでは入口で来館者の確認をしていないとのことで、そこでの声掛けというコミュニケーションを取るタイミングを失っている。利用者に対して施設側からも積極的にコミュニケーションを取るための仕掛けが必要。
74	受付は複数体制じゃないときつい。
75	今までの雰囲気は保てるのが重要。
76	業務内容も増えるし、規模も変わるので対応しなければならないとわかっているが、不安もある。
77	コミふらのセキュリティについてはどうなっているのか。開設時間中にずっと役所が開いていて連絡を取れるわけではないので、何か事故があったときの対応は不安。
78	さすまたのような備品を置くなどの対応しかできないのか。
79	ゆうゆう館は受付の職員は1人だが、コミふらになると2人体制になるのが心強いと思う。
80	ゆうゆう館で働いているが、コミふらになるのであれば働かないと思う。ゆうゆう館の、家族のような雰囲気がとても良いと思っている。コミふらでは違った雰囲気になるのではないかなと思う。
81	さざんかねっとは高齢者にとっては使いにくい。
82	ゆうゆう館の目的外使用では、予約した利用種目とは異なる活動をする利用者がいて困っていた。コミふらになって集会所の機能をもつと、そのようなことが多くなるのではないかな。

83	高齢者が部屋を取りにくくなるのではないかと心配である。
84	コミふらになることで、いきいきクラブが衰退してしまうのではないかと不安である。
85	コミふらにはたくさんの方がくるので、ゆうゆう館の時と同様に利用者とのコミュニケーションを取ることができるか心配である。
86	ゆうゆう館では、名前と顔を一致させることで仲良くなり、交流がうまれてきた。コミふらでは受付の際、名前をチェックしないというのがどうかと思う。
87	なるべく利用者の名前を呼ぶことを心がけてきた。
88	見守るという意識が大切。ゆうゆう館では、受付の際にゆっくり話をする時間があるので、利用者の変化に気づきやすい。異変を感じたときは、ケア24と連携をとるなどしていた。
89	ゆうゆう館は高齢の職員が多いため、利用者も同じ目線で会話ができるが、若い職員が相手だと、やりとりのテンポが異なると思う。コミふらの窓口が2人体制であるならば、片方は若い職員、片方は高齢者など、分担すればうまくいくのではないかと思う。
90	高齢者は変化を嫌うので、配慮が必要である。
91	コミふらがゆうゆう館のように高齢者の話を丁寧に聞いたり手伝ったりできる施設になるのであればコミふらでも働きたいと思うが、ただの貸し部屋になってしまうのであれば働きたいとは思わない。
92	ゆうゆう館では個人利用証を作成するため、認知症など様子のおかしい利用者がいれば、ケア24と連携して対応しているが、コミふらではケア24との連携が出来ないのではないか。
93	NPO法人でもコミふらの運営はできるのか。
94	コミふらの運営では高齢者目線で考え対応できるようにすることが大切である。
95	ゆうゆう館を利用していた人から、コミふらになってから声かけが減り、対応が冷たくなったように感じているという声を聞いた。
96	ゆうゆう館の受付業務では、声の大きさ、説明のわかりやすさを意識している。
97	利用者の荷物が重そうに見えたらお部屋まで運んで上げている。
98	利用者がけがをしないう、通路にもものは置かないように気を付けている。
99	コミふらでは、個々の利用証がないが、利用者の確認はどうしているのか。また、緊急連絡先はどう把握しているのか。
100	団体の更新事務についてゆうゆう館との違いは？
101	備品について、自主事業用の備品はあるのか、団体活動に使用している備品はどうなるのか。
102	コミふらの自主事業の参加費について、ゆうゆう館の協働事業より料金が高く高齢者が参加しにくい。コミふらの自主事業の料金が高くなる理由を教えてください。
103	コミふらで働くことに対する抵抗はない。
104	過去にさざんかねっとの取り扱いについて区役所の主管課間で言っていることが違うことがあったのでそういったことはないようにした方がいいと思う。

「(仮称) コミュニティふらっと上荻窪」の整備に向けた取組の一旦休止に関する  
説明会及び意見交換会

対 象：ゆうゆう上荻窪館利用者

参加者数：18名

開催日時：令和5年1月26日 午後1時00分～2時30分／午後3時00分～4時30分

場 所：ゆうゆう上荻窪館

意見	
1 ゆうゆう館に関する施設再編整備計画について	
○ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの機能継承についてご存じでしたか。	
1	機能継承については、ゆうゆう館の受付で聞いていた。ゆうゆう館を使用していた人が、これまでと同様に使用できるシステムにしてほしい。
2	機能継承について聞いていた。移転前のゆうゆう上荻窪館の近くに自宅があるため、早くコミュニティふらっとに機能継承してほしい。
3	機能継承については聞いていたが、杉並会館に移転する前に意見交換会を開催してほしい。早々に杉並会館に活動場所を変更させられたにも関わらず、旧ゆうゆう館の更地期間が長期化することは望ましくない。
4	機能継承について知っていた。移転前のゆうゆう上荻窪館は問題なく使用できているため、老朽化により解体する必要はない。今後も高齢者が利用できる施設の運営を継続し、広く周知すべきである。
○ゆうゆう館の再編についてどう思いますか。	
5	多くの区民が使用できるようにするには、多世代型施設へ機能継承する施設再編の取り組みはとても望ましい。
6	施設を再編してどうしたいのか。
7	施設を建て替えるなら1階をゆうゆう館、2階を集会施設にしてほしい。
8	移転前のゆうゆう上荻窪館の跡地について、取り壊して3年間更地のままなのは無駄だと思う。早く建て替えてほしい。
9	杉並会館で長く活動していくのは、不便である。
10	コミュニティふらっととゆうゆう館の違いを知りたい。登録団体の条件は変わるのか。
11	コミュニティふらっと阿佐谷を利用している知り合いは、「高齢者は優先して使用できる。建物もきれいになったため、良いのではないか。」と言っていた。旧ゆうゆう上荻窪館は坂(スロープ)があり、玄関口も狭い。また、部屋の定員もあるため、これまで大勢で誕生日会を実施できなかった。コミュニティふらっとになり部屋が広くなると誕生日会も実施できるのではないかと思う。
12	コミュニティふらっと上荻窪の設計図面を早く用意すべき。
13	ラウンジ使用について、ラウンジでおしゃべりをしていたら、勉強している人にとっては迷惑だと思う。
14	「コミュニティふらっと」という名称はわかりにくいので、よくないと思う。略称で「コミふら」と言われても何のことかわからない。略称がどのようになるのかも重要な視点である。名称はゆうゆう館のままにするか、もっとわかりやすいものにしてほしい。
15	ラウンジ使用の際は、受付で氏名の確認をされるのか。
16	ラウンジで緊急事態が発生したときはどうするのか。
17	私は現在コミュニティふらっと東原を使用している。コミュニティふらっとは建物もきれいでエレベーターもあり。申し込みば部屋も十分使用できるため、ゆうゆう館よりもいい施設だと感じる。
○高齢者専用(単独)施設がいいですか、それともコミュニティふらっとのような多世代型施設がいいですか。	
18	多世代型施設はいいと思う。小さい子の様子を見ているとエネルギーをもらえる。
19	同じ空間に高齢者のみではなく、若い人もいると脳の活性化に良いのではないか。若い人と会話をしたり、「こんにちは」と挨拶をするだけでも脳の活性化に十分である。
20	部屋の予約が混み合ってしまうか不安。
21	人形劇の活動をしているが、多世代型施設になれば発表会を様々な人に見てもらえる可能性があり、望ましい。

22	コミュニティふらっと阿佐谷を利用している知り合いは、「ゆうゆう館の方が利用しやすかった。コミュニティふらっとでは利用できない日がある。」と言っていた。しかしながら、若い方の活動場所確保も必要かと思うので、施設が広がるのであれば、多世代が利用できる施設にしてよいと思う。
----	--

「(仮称) コミュニティふらっと浜田山」の整備に向けた取組の一旦休止に関する  
説明会及び意見交換会

対 象：ゆうゆう高井戸東館利用者

参加者数：26名

開催日時：令和5年1月29日 午後1時00分～2時30分／午後3時00分～4時30分

場 所：ゆうゆう高井戸東館

	意見
1	ゆうゆう館に関する施設再編整備計画について
○ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの機能継承について	
1	計画について知らなかったが、多世代型施設であるコミュニティふらっとの整備はいい取り組みである。
2	残り2年ほどでコミュニティふらっとに転用されることについては、抽選会の際に聞いていた。今後杉並区では少子高齢化で予算が減少する。また、耐震面からも大切な子供たちを守るために、取り組みを進める必要はあると思う。我々は元々この場を借りている身なので、この場が使用できなくなることは覚悟していた。
3	コミュニティふらっとは多世代型施設というが、子どもたちは施設で何をするのか。
4	全く知らなかった。
5	会長会で転用について聞いていた。高井戸東四丁目には区立施設がなく、ゆうゆう高井戸東館が活動の拠点となっている。ゆうゆう館までの距離も遠い中、転用によりさらに遠くなると、通うのがとても厳しくなる。
6	数年後に移転することについては聞いていた。しかし、コミュニティふらっとに転用されることは初めて聞いた。活動部屋さえ確保されていれば、移転しても通うことはできる。
7	ゆうゆう館の機能継承についてはなんとなく知っていたが、機能継承先等の詳細については知らなかった。
8	浜田山会館に移ることになることを知っていた。
9	団体メンバーには、80代や90代の方もおり、浜田山会館に移ると距離的に通うことが難しくなる方もいるため、今後の活動について考えていた。
10	利用者間、受付からの話で聞いたが、詳細は把握していなかった。
○ゆうゆう館の再編についてどう思いますか。	
11	ゆうゆう館利用者の使用回数が大幅に制限されるのであれば、転用は望ましくないが、これまで通り使用できるのであればコミュニティふらっとでも問題ない。
12	機能継承について、区からもっと早く説明が欲しかった。
13	取組が一旦休止となるのは、計画と区長の方針に齟齬があるからか。
14	ゆうゆう永福館は廃止されるのか。ゆうゆう永福館は一般家庭のような趣のある建物であるが、このような施設をつくることは出来ないのか。
15	ゆうゆう館の数が減らなければよい。ゆうゆう館の数が減るということは遠くなるということである。
16	高齢者は、ゆうゆう館を楽しみにしている。このような機能を大切にしてほしい。
17	高齢者は耳が遠いなどの理由で、大きな音を出して活動していることもあると思う。机上だけでなく、実際の活動状況を見て考えてほしい。
18	ゆうゆう館では無料で活動できたが、コミュニティふらっとではどのようになるのか。再編自体は行っても構わない。
19	コミュニティふらっとについては概ねいいと思う。
20	新規の高齢者団体は優先枠により優先されるのか。コミュニティふらっと成田への機能継承の際は、ゆうゆう浜田山館の利用者が少なかったため、集約できたようだが、ゆうゆう高井戸東館は利用者が多い。コミュニティふらっとで集約できるのか。
21	コミュニティふらっとになってもこれまでと同じように活動できるのであれば問題ない。
22	再編の取り組みはよいと思うが、高齢者になればなるほど予約を取るのが大変になる。区民センターなどの予約方法はとても大変な反面、ゆうゆう館では予約の大きさがなかった。浜田山会館の利用者もコミュニティふらっとを利用するのであれば、倍率が上昇し、予約が取れないのではないかと。増築するのであれば、多世代型施設が望ましいと思う。
23	浜田山会館のホールも残るのか。

24	活動が継続できるか心配である。
25	建物の建替は仕方ない。高齢者団体の枠を確保し無料とする仕組みはよい。
26	「コミュニティふらっとに転用することで、多世代の交流は進んでいるのか」「利用率などの実績はどうか」「当初の想定と比較しどうか」といった検証が必要だと思う。良い情報ばかりが伝わってきて、悪い情報がないので逆に不安を感じる。
27	高齢者の歌声が部屋から漏れると、他世代の利用者から何か思われぬか、というような不安がある。
28	コミュニティふらっとに関する情報発信がない。
29	ゆうゆう館の職員に、「コミュニティふらっとではこれまでと同じように活動できるのか」と聞いても答えてもらえない。
30	ゆうゆう館は利用者の要望を踏まえ、融通をきかせてくれることがあるが、コミュニティふらっとではそういう感じではない。コミュニティふらっとで利用時間の5分前に備品の貸出を希望しても、対応してもらえなかった。
31	ゆうゆう高井戸東館は保育園と併設しており、交流がしやすい。交流は双方にとってもよい面がある。保育園という施設が物理的に併設されているからこそ、交流がしやすいという面もあるのではないか。コミュニティふらっとでは、個人個人の交流に留まってしまうのではないか。
32	今のコミュニティふらっとの課題を把握し、きちんと対応すべき。
33	コミュニティふらっとに活動場所が移ったが、「音を下げてください」と言われるなど、使いづらい。機能継承はできていないのではないか。
○高齢者専用（単独）施設がいいですか、それともコミュニティふらっとのような多世代型施設がいいですか。	
34	多世代交流の場の必要性は分かるため、多世代型施設を新設することはよいが、高齢者専用施設も残すべきだと思う。多世代型施設を新設するためにゆうゆう館を廃止するべきではない。
35	自分たちの活動枠の中で活動しているので、多世代型施設でも高齢者専用施設でもよい。
36	今後杉並区では高齢者が増加するため、高齢者の施設を増やした方がよい。
37	丁目単位で施設をつくってほしい。高齢者にとっては小さくても身近に活動場所があることがとても重要である。そのためには空き家を活用するなどの方法がよいと思う。
38	多世代型施設が望ましいと思う。
39	多世代交流に違和感はない。子どもの声は微笑ましい。
40	子どもは好きなので、ラウンジが賑やかになることは構わない。
41	タイムシェアはよい取組だと思う。
42	ゆうゆう館と同じように利用できるのであれば、多世代型施設を否定するものではない。
2 ゆうゆう高井戸東館の今後について	
○新しい施設にはゆうゆう館のどんな機能が継承されれば利用したいですか。	
1	団体のロッカーを設置するのは難しいだろうが、団体の私物を置かせてもらえるようにしてほしい。
2	書類を置いておけるサイズのロッカーが欲しい。
3	備品を活動があるたびに自宅から持ち運ぶのは、高齢者にとっては大変である。
4	高額でなければ有料でもよいので、荷物置場を作ってほしい。
5	活動に使う備品はフリーフロー、輪投げ、カラオケ機器などがある。持ち運べるものはその都度持ち込みでもよいが、持ち運びが難しいものは置いてほしい。
6	自動販売機があるとよい。
7	ネット環境があった方がよい。
8	コミュニティふらっとではゴミを捨てられるのか。
9	ネット環境があっても、使うことはないと思う。
10	座れない方もいるため、和室は必要ない。
11	調理室があるとよい。
12	土足で歩く床でヨガなどの活動を行うのは嫌だ。現在一般家庭から和室は消えつつある。コミュニティふらっとは多世代型施設になるというが、和室をつくることで子どもが和室を知る良い機会になるのではないか。
13	雨の日に土足で歩いた場所に座ったり荷物を置いたりするのは大変である。和室でなくてもいいが、靴を脱いで上履きに履き替える仕様にしたい。
14	元々ゆうゆう高井戸東館には、談話室以外に和室がないため、和室の必要性を感じていない。
15	歌を歌ったりするので、防音の部屋を設けてほしい。

16	コミュニティふらっとの1室は広すぎる。もっとこじんまりした部屋（ゆうゆう館の洋室3のような部屋）があると調度よい。小さい部屋を設ければ、他の部屋を広くできるのではないか。
17	マッサージ機・電位治療器は使用している人もいるので、設置されれば使用したい人はいると思う。高齢者活動支援センターではマッサージ機が専用の部屋に設置されているので子供がいたずらをするのがなく安全である。
18	ゆうゆう館に自転車で通っているが、駐輪場が足りない。
19	マッサージ機や電位治療器はなくてもよいがあれば便利である。
20	自分たちは利用していないが、団体活動はせずに、毎日マッサージ機を使用している人もいる。
21	協働事業（自主事業）については、500円程度であれば参加する。
22	あまり安すぎてもよくない。講師がいる場合、先生にお渡しする謝礼が少なくなってしまう。
23	ゆうゆう館の従事者はとてもよくやってくれている。コミュニティふらっとでもゆうゆう館と同じようにやってくれればいい。
24	ゆうゆう館の良いところはのんびりしているところである。ふらっと友人の家に訪ねていく感覚で通うことが出来る。靴を脱ぐだけでもそう感じる。建物がきれいになるとはいえ、ゆうゆう館のような雰囲気はなくさないでほしいが、様々努力してよい施設にするというのであれば、それでもよいかもしれない。
25	コミュニティふらっとに行くことがあるが、ゆうゆう館とは対応が全く異なる。
26	少し早めに来館した際に、ゆうゆう館では部屋が空いていても入れてくれないスタッフがいる。
27	高井戸東館の従事者は、活動前にクーラーをつけておいてくれるなど、いい人ばかりである。一方で、下高井戸館では高齢者は勝手に活動してくださいという雰囲気の対応をされる。挨拶もあまりない。
28	ゆうゆう館の協働事業者にコミュニティふらっとを引き続き運営してほしい。コミュニティふらっと永福に問い合わせの電話をしたら、事務的な受け答えをされて、悲しかった。コミュニティふらっと成田では、予約時間の5分前からしか部屋に入ってはいけないと言われた。ゆうゆう館ではそのようなことをいわれたことがなかったのとまどった。
29	ゆうゆう館の良い点は気軽に使えるところ。受付の方も良い人である。
30	ゆうゆう館では何回同じことを聞いても親切に答えてくれる。
31	今のゆうゆう館の受付職員はAEDに関する講習を受けて、認定証を定期的に更新していると聞いている。高齢者が突然倒れた時のためにも、この取組は継続してもらいたい。
32	今のゆうゆう館に不満はない。受付の方がよく声をかけてくれる。
33	月8枠もいらぬ。枠が仮に取れても、それぞれ予定があるので、人が集まらないだろう。
34	月4回くらい利用している。月8枠使えたとしてもみんな譲り合いながら使うべき。
35	月8枠は多い。そんなに使えない。
36	月に8枠は多い。8枠使用する団体がいることで他の団体が使用できなくなることが心配である。
37	8枠で十分である。
38	私は参加している複数の団体で計20枠ほど使用している。8枠では足りなくなる。（1団体ごと8枠と説明）
39	ゆうゆう館で行われていた展示会や併設保育園との交流など細かく言えば引き継ぎたい箇所はあるが、一番は今の活動を皆が続けられるようにしてほしい。
40	高齢者が利用する施設は1階がいいと思う。
41	他の区立施設では毎月予約を取る必要がある。ゆうゆう館では半年に一回の抽選会であったが、毎月になるのは大変である。
42	予約が今と同じように簡単に取れるとよい。
43	コミュニティふらっとでは利用手続きが煩雑である。ゆうゆう高井戸東館ではメールでの手続きも可能だったが、コミュニティふらっとでは不可能になった。
44	ゆうゆう館は規模がそれほど大きくないが、それが使いやすいという面もあると思う。
○区立施設再編整備計画では、浜田山会館を改修して（仮称）コミュニティふらっと浜田山とすることとしていますが、これについてどう思いますか。	
45	駅から遠くなるが、私の団体は自転車で通う人が多いためそれほど問題がない。
46	コミュニティふらっと浜田山になってもよいと思う。
47	歩いてくる人もいるため、現在地（ゆうゆう高井戸東館）の方がよかった。鎌倉街道を越えるのは大変である。
48	浜田山会館であればそれほど遠くもなく、私の団体には自転車を通う人が多いため浜田山会館の場所でもよいが、雨が降ると自転車で通う人は休むことになると思う。

49	再編が進む過程で、ゆうゆう高井戸東館の利用者はコミュニティふらっと浜田山でしか登録が出来ず、他のコミュニティふらっとやゆうゆう館を使用できないというような運用にならないかなと思う。
50	区民集会所もコミュニティふらっとに転用することもあるのか。
51	ホールなどの浜田山会館としての機能はどうなるのか。杉並区は音楽ホールが少ない。各地にホールがないため、久我山会館や浜田山会館のホールを利用することがある。
52	大きな街道や線路を超えると街の雰囲気も大きく異なる上に、通うのがかなり大変である。そのため、空き家を利用して丁目単位で施設を整備してほしい。そのような施設は、ゆうゆう館でなくても構わないし、管理人等はいない無人施設でも構わない。管理は自分たちで行ってもよい。
53	距離的には不便になる。高井戸から来る人もいるので、今の場所で存続させてほしい。
54	肉体的にも、心情的にも場所が変わることに抵抗がある。
55	保育園を改築したら、ゆうゆう館も一緒に改築してほしい。
56	活動する場所がなくなるのが困る。活動場所があれば少し遠くなったとしても、這ってでも行く。
57	少子化にもかかわらず、保育園は必要なのか。みんな高齢者になる。高齢者を大事にした取組を行ってほしい。
58	距離的には遠くなる。自宅から歩いて行ける範囲にあるとよい。
59	自宅付近の施設があるため利用できていた。場所は遠くなることで利用できなくなってしまうのは、何のための高齢者施設なのかわからない。
60	浜田山会館へは、交通の便が悪く、徒歩で移動する方の中には、来れなくなる人もいる。
61	大きくなくてもよいので、近くに集まれる場所があるとよい。
62	遠くなる人もいれば近くなる人もいるため、一概には言えない。
<b>3 その他の意見</b>	
1	一般利用者としてコミュニティふらっとを利用する時の料金が高い。昔ほどとは言わないが、料金を下げてほしい。
2	コミュニティふらっと成田が半地下になっているのはよくない。水害があったときに高齢者はスロープを上って避難できるのか。
3	コミュニティふらっと阿佐谷を使用したことがあるが、使い勝手はよかった。
4	これまでも保育園児がゆうゆう館の方に来て、交流する取組を行っていた。このような交流はよいと思う。
5	意見用紙を施設窓口で提出というのは時代遅れ。メールやFAXなどでも提出できるようにすべきではないか。
6	コミュニティふらっと阿佐谷で俳句をやっているが、阿佐谷地域にはゆうゆう館がないようだ。ゆうゆう館のような施設が阿佐谷地域にもあるといい。
<b>4 意見用紙での意見一覧</b>	
1	私達は気功をこの場所で14年間行っています。現在 80代6人、70代6人、60代1人 計13名で活動しています。高井戸、浜田山、成田西よりほとんどのメンバーが徒歩で通っております。以下の理由で浜田山会館への移転に反対致します。鎌倉通りは車の交通量が多く危険。現在の場所より遠い浜田山会館では高齢者には通うのが大変。場所が変われば気功をやめるとのメンバーがいる。以上の理由から高齢者のために移転はしないでほしい。改修工事で存続してほしい。高齢者が必要とする場所を奪わず元気で生きていけるような施設作りを目指してほしい。
2	早めに方針を示して頂きたい。

「(仮称)コミュニティふらっと上荻窪」の整備に向けた取組の一旦休止に関する  
説明会及び意見交換会

対 象：ゆうゆう西荻北館利用者

参加者数：25名

開催日時：令和5年1月31日 午前9時30分～11時00分／午前11時30分～午後1時00分

場 所：ゆうゆう西荻北館

意見	
1	ゆうゆう館に関する施設再編整備計画について
○ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの機能継承についてご存じでしたか。	
1	機能継承について事前に知っていた。高齢者は施設が身近に無ければ通うことができない。ゆうゆう上荻窪館と合わせて一箇所になるのは遠すぎる。子供も大切だが、高齢者にとっての距離の問題が一番重要だと思う。
2	現在の基準等では保育園の建替の際に1.5倍の面積を要することは理解できるが、3階建てにはできないのか。周辺には3階建て以上の建物も立ち並んでいるため、エレベーター付きの施設としたうえで、ゆうゆう館を3階にすることは可能ではないか。
3	コミュニティふらっとに転用されることは知っており、距離が遠くなることに対して心配していた。
4	90代の方もゆうゆう館を利用している。利用者は皆、この場所（現在のゆうゆう西荻北館）だから利用できており、移転するのは困る。しかし、移転については、私達よりも次の世代に大きくかわる問題である。
5	多世代が一つの施設を利用したとしても、交流が生まれるわけではない。以前、ゆうゆう館でも併設の保育園との交流を行っていた。3階建てとし、保育園との交流を実施するのはどうか。
6	全てを保育園とするのではなく、2階の一部をゆうゆう館とすることも可能ではないか。このように、様々な工夫を凝らして検討してほしい。
7	団体に所属していない個人利用者にも施設を利用してもらいたい。一人で来館した方が一息つける場所があるとよい。
8	機能継承について聞いていた。とても関心のある課題であり、区立施設再編整備計画には総論賛成である。
9	計画を決める段階で、利用者の意見を聞いて欲しかった。
10	昨年1月に受け取った書類で機能移転について知った。コミュニティふらっとの名称はその際知ったが、内容については全く分からない。今回説明を聞いて、コミュニティふらっとについて好感を持てたが、私たちは、ゆうゆう西荻北館をいつまで使用できるのか。今後、ゆうゆう上荻窪館の方々はどうするのか。
11	移転することは知っていたが、「どこに移転するのか」、「いつ移転するのか」、「活動は休止となるのか」など、取組の詳細については知らなかった。
12	移転することに対しては、それほどハードルを感じない。活動ができなくなる期間が発生し、活動が停滞してしまうことに課題を感じている。
13	なんとなく知っていたが、コミュニティふらっとに転用されることで高齢者が今までと同様の活動ができなくなると感じていた。
14	コミュニティふらっとは未知のものという印象だった。
15	コミュニティふらっと上荻窪に活動場所が移るに関して、反対意識はない。遠くなる人もいれば、近くなる人もいる。
16	距離が遠くなると、通いづらくなるため、距離が一番の課題だと感じている。また、距離が遠くなっても、活動を継続したいかという気持ちの問題もある。
17	昨年の下半期抽選会の際に案内文が配布され、機能継承について知った。
18	ゆうゆう西荻北館の廃止後は、杉並会館に移るという噂を聞いていた。杉並会館にせよ、ゆうゆう上荻窪館にせよ、通いにくくなると思う。
19	再編整備計画について聞いたことがなかった。周知が足りないように感じる。
20	あまり詳細には知らなかった。
21	取組については広報を見て知っていた。
○ゆうゆう館の再編についてどう思いますか。	
22	再編のやり方はこのままでいいと思う。しかし、距離が遠くなるのはよくない。
23	計画を決定する段階で、利用者の意見を聞いてほしかった。

24	今後もこの場所（現在のゆうゆう西荻北館）がいい。
25	時間枠を一般の人よりも優先的に確保できることが大事。
26	高齢者は、ゆうゆう館を楽しみにしている。
27	再編されると、ゆうゆう館に通えなくなる人が出てきて、団体を構成するメンバーが変わってしまう。
28	書道など、主に個人でやる活動は団体のメンバーが変わったとしても活動を継続できるが、楽器演奏などはグループで協力して行うものなので、団体のメンバーが揃わないと活動ができなくなってしまう。その為、再編の捉え方は団体ごとに差があるのではないか。
29	施設再編整備計画はよい考え方のため、賛成である。
30	若年層と高齢者が求めているものは違うので、再編整備に反対の声もあると思う。
31	今までどおり、保育園とゆうゆう館の併設とし、利用階が分かれている形がよい。
32	現施設でも、日頃子どもの声を聴いたり、自分たちの演奏を子どもたちに聴いてもらったり、防災訓練を一緒に行ったりと、交流はできている。
33	実際にやってみないと分からないこともあると思う。
34	このような意見交換会はもっと早くやるべきだったと思う。今回だけではなく、定期的に行ってほしい。
35	今の活動場所、今のメンバーだからこそ、今の団体の色があると思う。施設が遠くなり通えなくなる人がいると、団体の継続が難しくなる。
36	2つのゆうゆう館を一つの施設に集約するには、ゆうゆう上荻窪館の跡地は狭いと思う。
37	今の場所で活動を継続したいので再編整備には反対である。
38	再編整備には賛成だが、早く方針を決めてほしい。
39	一旦休止のはずだが、移転ありきで話されているように感じる。取り組みを中止にすることも視野に入れてほしい。
40	このままの施設にしてほしい。
41	コミュニティふらっと上荻窪への機能継承に伴う活動場所の変更については許容できる。遠くなる人もいれば近くなる人もいる。
42	今まで通り活動が継続できるか心配である。
43	既存のコミュニティふらっとでは、うまく活動できていない人がいるという噂をきく。
44	多世代交流にも意味があるため、高齢者単独施設でなくても構わない。しかし、そもそも利用できなくなってしまえば意味がない。
45	多世代型施設でもよいが、本当は高齢者単独施設が望ましい。
46	高齢者専用施設よりも多世代型施設の方がいい。多世代型施設にするにあたっては十分なスペースの確保と利便性が重要になる。
47	多世代型施設でもいいが、施設のキャパシティを大きくする必要がある。
48	ゆうゆう館の中ですら世代の差を感じることもある。高齢者と若い世代では考え方が全く異なるため、同じ空間にいることは難しいと思う。
49	多世代型施設には賛成である。多世代交流には良い影響があり、小さな子供を見ると心が和む。
50	この場所でなければならぬということはない。施設を使用させてもらえるだけでもありがたいため、多世代型施設でもよい。しかし体育施設のように予約を競い合わなければならないのは困る。
51	多世代型施設でよい。多世代型施設に反対の方もいるということに驚いている。
52	コロナ前は、併設する保育園と交流があった。多世代交流はいい取り組みだと思う。
53	多世代交流は施設があればできるものではなく、仕掛けが必要だと思う。
54	逆に、既存のコミュニティふらっとがどのような状況なのかを知りたい。
55	多世代交流というコミュニティふらっとのコンセプト自体は理想的なものだが、実際に利用者が行動に移せるかは分からない。
56	他の世代との交流は、併設する保育園と既にできている。
57	今の場所で変わらずに活動できるのであれば、多世代型施設でも構わない。
2 ゆうゆう西荻北館の今後について	
○新しい施設にはゆうゆう館のどんな機能が継承されれば利用したいですか。	
1	備品の置き場所が必要。
2	ロッカーは現在もないため、必要ない。
3	ロッカーがあれば便利だが、管理が難しくなるだろう。

4	ロッカー形式でも良いので、私物を置くスペースは必要。
5	備品を購入するに当たっては、実際の活動で使える・使えないがあるので、利用者の声を聴いてほしい。
6	私物を入れるロッカーがあるとよい。無料であればなおよい。
7	活動備品を今までどおり使えるようにしてほしい。
8	ネット環境はほしい。
9	自動販売機が欲しい。
10	ネット環境については、自分たちはあまり使わないがあってもなくてもどちらでもよい。
11	コピー機を使えるようにしてほしい。(A3程度の大きさをコピーできれば十分)
12	和室はなくてもいい。
13	高齢者は座ることが出来ないため、和室は要らない。
14	コミュニティふらっとにはレセプション機能をつけてほしい。
15	太極拳を行っているので、運動することができるスペースが確保できると良い。
16	講師の先生を呼ぶ活動の場合、講師の先生が着替えることがある。更衣室までほしいとは言わないが、天井にカーテンをつけたりして、目隠しを一部設けるなど、着替えができるスペースがあるとよい。
17	高齢者は足が悪い人が多いので、洋室があれば充分である。
18	マッサージ機・電位治療器は使用している人が少ない。設置されていれば活動時間よりも早く来館した際に使用したいが、なくてもいい。
19	マッサージ機はあった方がいい。
20	マッサージ機は、あれば使うし、なければ使わない。
21	協働事業は300円程度がよいが、500円程度であれば何とか参加できる。
22	協働事業の値段については、500円程度であると望ましい。
23	講師が有名な方であれば1000円でも仕方がないが、高すぎては参加しづらい。
24	以前はもっと安い金額の協働事業があったが、講師への謝礼等も考えると今の値段でもしょうがないと思う。
25	コミュニティふらっとでも空き枠使用制度を継続してほしい。
26	8枠あれば十分である。
27	予約システムはさざんかネットを使用するのか。現在は、調整することにより、抽選会を回避できているが、コミュニティふらっととなり、新規登録が増える可能性がある。どうするのか。
28	基本的には、現在と同じ数だけ活動ができればよいと思っている。
29	コミュニティふらっとでもゆうゆう館と同じように予約ができるとよい。
30	高齢者団体優先枠は月8枠で十分である。
31	身近にあり無料で使用できるのがゆうゆう館の利点である。
32	高齢者にとって、ゆうゆう館のスロープを登るのは一苦労である。
33	身近に施設がなければ通うことが出来ない。コミュニティふらっとには、2つのゆうゆう館を吸収できるほどの部屋があるのか。
34	善福寺方面から来館しているため、これ以上遠くなるのであれば活動をやめたい。
35	ゆうゆう上荻窪館の人と一緒にいること自体が嫌ということはない。
36	ゆうゆう西荻北館とゆうゆう上荻窪館の両方で活動しているため、一緒になればとても便利である。自転車で通うため、問題なく通うことができる。
37	団体メンバーの8割9割が移転前のゆうゆう上荻窪館は遠いと感じている。そのため、現在地が望ましい。
38	団体メンバーの半数程度は遠いと感じている。通えなくもないが、現在地の方が望ましいという人が多いだろう。
39	ゆうゆう西荻北館の利用者は、西荻窪駅を利用する人が多いため、移転前のゆうゆう上荻窪だと不便な人も多いだろう。
40	遠く感じるが、両館を行き来している人もいるため、慣れれば問題ないのかもしれない。
41	枠が十分にあれば、ゆうゆう上荻窪館利用者と一緒になること自体は問題ない。
42	2つのゆうゆう館が一緒になることによって、交流があるかもしれないから、望ましい。

43	ゆうゆう西荻北館では、利用枠の抽選をほとんどしていない。2つの施設が一緒になって、利用時間や部屋の規模の希望が叶わず、団体のメンバーが揃わなくなる場合には、活動を辞めざるを得なくなると思う。
44	施設の場所、施設への距離は、引き続き通えるかどうかを判断する上で大切である。
45	小学校の空き教室を使うことはできないのか。
46	今もゆうゆう上荻窪館の方からゆうゆう西荻北館に通っている人がいる。
47	一時期改修工事でゆうゆう西荻北館を使用できなかったときは、皆、ゆうゆう上荻窪館に通っていた。
48	他のゆうゆう館と一緒にするというのは抵抗がある。その館の雰囲気というものもあるし、利用者は施設に愛着がある。
49	別の館で同じような活動をしている団体もいる。「活動内容が同じだからという理由で団体を一つにまとめられてしまうのではないか」という不安がある。
50	今のゆうゆう西荻北館でも、常日頃から団体間の交流があるわけではなく、同じ時間帯や前後の時間帯の団体と入れ替わり時に顔を合わせる程度だ。
51	抽選で思うように枠が取れないのではないかと不安である。
52	移転前のゆうゆう上荻窪館の場所までであれば、距離的には問題がないように思える。
○区立施設再編整備計画では、(仮称)コミュニティふらっと上荻窪でゆうゆう上荻窪館の利用者と一緒になることとしていますが、これについてどう思いますか。	
53	身近に施設がなければ通うことが出来ない。コミュニティふらっとには、2つのゆうゆう館を吸収できるほどの部屋があるのか。
54	善福寺方面から来館しているため、これ以上遠くなるのであれば活動をやめたい。
55	ゆうゆう上荻窪館の人と一緒にすること自体が嫌ということはない。
56	ゆうゆう西荻北館とゆうゆう上荻窪館の両方で活動しているため、一緒になればとても便利である。自転車で通うため、問題なく通うことができる。
57	団体メンバーの8割9割が移転前のゆうゆう上荻窪館は遠いと感じている。そのため、現在地が望ましい。
58	団体メンバーの半数程度は遠いと感じている。通えなくもないが、現在地の方が望ましいという人が多いだろう。
59	ゆうゆう西荻北館の利用者は、西荻窪駅を利用する人が多いため、移転前のゆうゆう上荻窪だと不便な人も多いだろう。
60	遠く感じるが、両館を行き来している人もいるため、慣れれば問題ないのかもしれない。
61	枠が十分にあれば、ゆうゆう上荻窪館利用者と一緒になること自体は問題ない。
62	2つのゆうゆう館が一緒になることによって、交流があるかもしれないから、望ましい。
63	ゆうゆう西荻北館では、利用枠の抽選をほとんどしていない。2つの施設が一緒になって、利用時間や部屋の規模の希望が叶わず、団体のメンバーが揃わなくなる場合には、活動を辞めざるを得なくなると思う。
64	施設の場所、施設への距離は、引き続き通えるかどうかを判断する上で大切である。
65	小学校の空き教室を使うことはできないのか。
66	今もゆうゆう上荻窪館の方からゆうゆう西荻北館に通っている人がいる。
67	一時期改修工事でゆうゆう西荻北館を使用できなかったときは、皆、ゆうゆう上荻窪館に通っていた。
68	他のゆうゆう館と一緒にするというのは抵抗がある。その館の雰囲気というものもあるし、利用者は施設に愛着がある。
69	別の館で同じような活動をしている団体もいる。「活動内容が同じだからという理由で団体を一つにまとめられてしまうのではないか」という不安がある。
70	今のゆうゆう西荻北館でも、常日頃から団体間の交流があるわけではなく、同じ時間帯や前後の時間帯の団体と入れ替わり時に顔を合わせる程度だ。
71	抽選で思うように枠が取れないのではないかと不安である。
72	移転前のゆうゆう上荻窪館の場所までであれば、距離的には問題がないように思える。
○(仮称)コミュニティふらっと上荻窪と一緒にならず、新しい施設が別の場所にできるとしたらどう思いますか。地域としてはどのあたりにきてほしいですか。	
73	ゆうゆう館から西荻北四丁目方面に10分圏内であれば通えるだろう。
74	西荻窪駅の南側まで行くのは遠い。
75	西荻北児童館は遠い。
76	西荻窪駅から徒歩10分圏内がいい。

77	ゆうゆう善福寺館とゆうゆう西荻北館の間辺りであれば通うことが出来る。
78	単に徒歩での通いやすさではなく、バスなど、公共交通機関で通いやすいかも大切である。
79	施設間の距離が離れていない方が通いやすい。一つのところに大きな施設ができるよりも、小さくてもたくさん施設の点在している方がよい。
80	場所が変わると困る。ゆうゆう上荻窪館の場所は距離が遠くて通にくい。
81	活動日時が変わると通えない人が出てくる。そうなると、団体存続の危機である。
82	今の施設の場所から徒歩5分の距離でも、通うのが難しくなるというメンバーもいる。
83	改修工事の間の代替施設であれば、多少距離が離れていても我慢できる。期間限定の移動と、恒久的な移動では、重みが違うと思う。
3 その他の意見	
1	高井戸にある高齢者活動支援センターが他の地域にもあるとよい。
2	長寿応援ポイントを貯めることをとても楽しみにしている。
4 意見用紙での意見一覧	
1	「コミュニティふらっと上荻窪」の整備に向けた説明会及び意見交換会に出席し、区の施設再編の考え方は理解した。今回の意見交換会は各会の代表者で高齢者が多かったと思う。したがって当面の活動についての質問なり意見が多かったように思う。それはそれで区立施設再編整備計画に考慮してもらえればと思う。 ここで施設再編についての意見を述べたいと思う。 コロナ渦の中で将来のことを考えるのは難しいが、今感じていることを言うと、施設を利用する活動も日々変化していると思う。活動が盛んであった15年頃前よりかなり人数が減っているようだ。一つの要因は定年が延びたこと、高齢者の考え方の多様化、その他様々あると思うが、団塊の世代が後期高齢者になって、高齢者の人口が増えているにもかかわらず、活動に参加する人が少ないようである。地方の小さな村では、世代を超えた地域住民同士の交流が盛んなところもあるようだが、それは地域に格差が少ないせいだと思う。東京では格差があり、なかなかうまくいかないように思う。また各サークルの先生なりリーダーが高齢化し、代わる人がいなく、各サークルの運用に苦慮しているようだ。いずれにしても将来の施設の活動を予測するのは難しいと思う。幅広い人、幅広い世代の意見を聞いて、一つ一つの新しい施設の状況を分析し、ゆっくり推進していった方がいいと考える。
2	ゆうゆう西荻北館については、施設建て替え後に戻ることにはできず、保育園単独の設置になるとのこと。コミュニティふらっと上荻に吸収されるといっても、高齢者にとっては身近な場が失われることになる。移動が難しくなり、活動できなくなる可能性大である。 「コミュニティふらっと」、すべての世代の交流と活動の場との考え方には同意するが、無理な方法で行うと利用できなくなる層が出てくると思う。 現在地で3~4階建てとし、保育園とともに、共存できることを望む。もし不可能でしたら、近場で可能な場所を検討してほしい。
3	1月31日、区側の説明を聞いた。要旨、完璧には理解できないままに終了してしまった。後日第二回目に参加した仲間と話し合ってみると内容が違っていた。小生の把握では施設老朽化により、建て替えるということ。ついてはゆうゆう西荻北館は保育園だけとし、ゆうゆう上荻窪館と合併してくれということ。さらに、「コミュニティふらっと」との名称で老若の区別なく、合同で使用すること。さしあたり、8枠の抽選とか。寝耳に水、小生は三つの団体の代表をやっているものの、いずれの活動も壊滅、消失することになると、考えざるを得ない。
4	「コミュニティふらっと」とは多世代利用のいわゆる「公民館」的イメージで、「ゆうゆう館」「区民集会所」の完全な形での機能継承とは思えない。施設の望まれる姿は、各世代に必要な機能が明確であるべき。それらの機能は、団体の活動を活性化させたり、サポートしたりする機能であることを望む。
5	前区長の時は上から目線での通知であって、渋々従わざるを得なかったが、今回の聞き取り調査は一步前進、直接の説明には納得するものがあった。最終的には「コミュニティふらっと上荻」でもOKだが、西荻北地域の高齢者の行動範囲を考慮すると、希望としては西荻北での活動が一番良い（場所、地域的に）。次に西荻北近辺でどこか。「コミュニティふらっと」でなくてもよい。コロナ感染拡大が故か、最近若い人（60~70代）が入ってこない。今ゆうゆう館で活動しているのは80歳前後の者が多い。前区長はゆうゆう館に力を入れていなかったようだが、これも影響しているのではないかと思っているのだが。

## ゆうゆう館利用者（ゆうゆう和田館）意見交換会

対 象：ゆうゆう和田館利用者

参加者数：13名

開催日時：令和5年7月21日 午前10時00分～午前11時30分

場 所：ゆうゆう和田館

意見	
1 高齢者の居場所としての施設の在り方について	
○ 様々な活動場所がある中で、ゆうゆう館を利用している理由	
1	ゆうゆう館に来ることは、生きがいになっている。人と接することができる。外に出る気持ちになる。
2	人と接することができる。会話が出来る。
3	勧められて。近くにあるので気軽に来れる。
4	無料のため高齢者が使いやすい。
5	ゆうゆう館は、施設の利用料が無料なので使っている。
6	料理の活動をしているので、ガス設備や食器があって便利だ。
7	和田地域に住んでいる。歩いてこれるメンバーが多い。
8	近くに住んでいるので来ている。
9	区民集会所にはいきいきクラブのような活動団体が無い。いきいきクラブには助成金も出ている。
10	友達に誘われたのがきっかけでゆうゆう館に来るようになった。今でも友達がたくさんいる。
11	書道の活動に参加しているが、腕のリハビリにもなっている。
12	和田地域には、ゆうゆう館の他に集まれる場所がない。
13	二階まで上がるためのスロープが長く、傾斜もある。事故の危険があるため、改修の際はエレベーターにして欲しい。
14	高齢者の憩いの場所として定着していると思う。和田地域のちょうど真ん中くらいにあるのがいい。
15	家から近い。
16	昔からの伝統があり、知り合いが多くいる。
17	使用料が無料。
18	時間枠が使いやすい。
19	家から近いのが良い。使用料が数百円かかっても使い続けたい。
20	受付の職員とのお話は、一人暮らしの高齢者の楽しみになっている。
21	受付の職員と体調の話ができる。
○ どのような協働事業やイベントに参加したいか。	
22	現在の和田館では、料理やコーラスの事業が人気。
○ 施設は高齢者専用施設が良いか、多世代が利用できる施設が良いか。	
23	新しい利用者がゆうゆう館に来ないので、団体の役員の引き継ぎができない。（70代でも仕事をしているなど）
24	子どもの動きはわからないので、不安がある。転倒すれば、自分が迷惑をかけてしまう。
25	多世代型施設とするのであれば、1階を高齢者、2階をコミュニティ施設にするなど、利用できる階を分けるのがよいのではないか。
26	スロープは長く大変なので、1階がよい。2階であればエレベーターを付ける。
27	利用時間より早くゆうゆう館に着いた時に、中で待てるスペースが無いのでほしい。
28	ゆうゆう和田館の話をすると、新しい若い利用者が入ってこない。自分がずっと最年少である。そういった意味では、多世代が利用できる施設も良いかと思う。
29	ゆうゆう和田館について、高齢者専用施設が多世代が利用できる施設という具体的な案があるのか。老朽化も進んでいるので早急に改築をしてもらいたい。その際は、高齢者専用施設として同じ場所で改築して欲しい。工事期間中は和田区民集会所を使わせてほしい。

30	エレベータを作るなら高齢者専用にしてほしい。大荷物を持った若者と一緒に乗ると事故に会いそうで心配だ。
31	若者に対しては抵抗感が。ぶつかって怪我したり、事故があると不安だ。同じ建物を利用するのは構わないが「高齢者専用フロア」のような形にして欲しい。
32	施設が新しくてきれいになるのは嬉しい。
33	この辺りの地域で多世代交流と言うと和田中や高南中も巻き込んでやるのが良いのではないか。
34	高齢者としては、自分たちの活動を満足にできることが第一。多世代交流と言っても、他の世代の面倒までは見切れない。
35	ゆうゆう館の協働事業で子どもの顔を見るのが楽しみになっている。
36	コロナ前は保育園の子供達と一緒に遊べて楽しかった。
37	今の活動が継続できるのであれば、多世代でも構わない。
2 施設の老朽化について（築50年を迎えて）	
○現在地での建て替えと移転（機能移転を含む）のどちらが良いか。	
1	今のゆうゆう和田館の場所での建て替え。建て替えの間は、他のゆうゆう館を利用して活動が続けられるようにしてほしい。
2	この場所で。場所が変わるとしてもせめて半径1kmくらいが望ましい。高齢なので他の場所にはもう行けない。
3	コミュニティふらっとに移った高齢者の方の感想などを聞いてみたい。
4	現在地での建て替えが良い。
5	調理の設備がないと活動できない。
6	和田区民集会所であれば、距離的には問題ない。
7	駐輪場は必要。
8	代替え場所としてセシオンは遠すぎる。環七を渡らなくてはいけない。また、セシオンとは逆側に代替え場所を用意した場合、バス停がほとんどないため、移動が困難となる。
9	具体的な場所を示してほしい。徒歩何分とか何mという話をして、現実的にそんな土地がないのではないか。
10	区民集会所、和田小学校、和田中学校くらいまでなら歩いて行ける。
11	倭成病院くらいまでなら通える。
12	環七通りを超えると辛い。
13	区民集会所、和田小学校、和田中学校くらいの場所であれば現在地で建て替えた場合の代替場所として良いと思う。
14	活動が継続して行えるようにしてほしい。
15	部屋の広さは今のゆうゆう館で丁度よい。
16	現在地から歩いて10分位なら通いたい。
17	時間枠は2時間の枠でも活動できると思う。
○施設の建て替えや移転を検討する場合の進め方について	
18	情報はこまめに教えてほしい。
19	出来ない事は、はっきり伝えてほしい。
20	このような意見交換は大事である。

ゆうゆう館利用者（ゆうゆう四宮館）意見交換会

対 象：ゆうゆう四宮館利用者

参加者数：10名

開催日時：令和5年7月31日 午後2時00分～午後3時30分

場 所：ゆうゆう四宮館

意見	
1 高齢者の居場所としての施設の在り方について	
○ 様々な活動場所がある中で、ゆうゆう館を利用している理由	
1	家の近くにあり、仲間ができる。
2	使用料がかからない。
3	お話ができる。
4	ゆうゆう館は、一人暮らしの高齢者にとって人と会える、話せる、楽しめる場である。
5	地域のつながりがある。
6	健康麻雀をやっている。会員は28名おり、女性が8割を占めている。麻雀というと、一般的に印象が良くないが、コミュニティふらっとに変わる場合、活動が追い出されないか心配している。雀卓は区に提供して、みんなで使う形にしているが、こうした形で雀卓を用意してもらえるのかも心配。
7	卓球の活動をしている。協働事業で実施していた卓球のイベントに参加したことがきっかけで、本ゆうゆう館で活動をしている団体を紹介していただいた。こうしたつながりでゆうゆう館を利用している。
○ どのような協働事業やイベントに参加したいか。	
8	健康麻雀や卓球は友達をつくるきっかけになる。
○ 施設は高齢者専用施設が良いか、多世代が利用できる施設が良いか。	
9	保育園の子供たちの声が聴けるのは元気が出るが、うるさいと思う人もいると思う。
10	子供から多世代の交流は生まれやすいが、高齢者から多世代への交流は生まれにくいと思う。
11	多世代交流は必要なことであると思う。
12	子供と一緒にすることに抵抗はない。
13	多世代交流には難しさもある。囲碁を子どもに教えるような会を開いた場合、そこに参加する子の親の期待値がとても高い場合があり、プロをも目指せるようなレベルを求めてくる場合もある。そうすると、教える側は持たなくなる。
14	卓球については、喜ばれる。子どもといえば、児童館の子どもの居場所がなくなってきている。
2 施設の老朽化について（築50年を迎えて）	
○ 現在地での建て替えと移転（機能移転を含む）のどちらが良いか。	
1	近い場所に作ってほしい。
2	（改築期間中については）隣の区民集会所が使えると良い。移転をする場合、この近隣なら問題はない。
3	改築・移転などで、近隣のお寺の敷地が広いので、賃借料を支払って借りるなどの対応をすればよいのではないか。また、小学校については用地も広いので、有効活用した方が良い。
4	改築等をするときに、その後の事業者が良し悪しを決める。コミュニティふらっと東原では、あいさつなどとても気持ちが良いし、利益を追求しないことが良い。
○ 施設の建て替えや移転を検討する場合の進め方について	
5	スロープは良くない。
6	建物が古いから建て替えは必要だと思う
7	横のつながりを整理する必要がある。児童館もゆうゆう館も同じような事業を実施していてまとめていかないといけないと思う。
8	ゆうゆう阿佐谷北館からゆうゆう広場が出来た際は流れが止まり引き継げない団体もいた。
9	コミュニティふらっとの時間枠は不便。14～16時で使用したい。
10	コミュニティふらっとになったら、囲碁、麻雀等の協働事業が減ってしまう。

11	音響施設が整った施設が良い。
12	全ての機能を一か所集めるのではなく、小さい規模でたくさんの施設がある方が良い。
13	元気でない高齢者に来てもらえるような工夫も必要だと思う。
14	意見をちゃんと聞いてほしい。意見交換の場をガス抜きにせず一から区民と計画を作ってほしい。
15	予算や地域の情報などを含めた詳細な説明が必要である。
16	コミュニティふらっとの必要性が分からない。
17	一般和室で2～3人で囲碁が出来ていたのが出来なくなる。
18	今と同じような運営をしてほしい。
19	コミュニティふらっとの使用について不安がある。行ってみたらはなしとちがうのではないか。
20	町会は、学校、消防、警察なども含め、様々な団体との調整がある。バラバラに話をするのが大変なので、地域活動係が地域の主体となって動いてほしい。区から地域に何かを示すときには、いつまでに何を決めるのかをしっかりと書いてほしい。配布先の区民からは、こうした部分を問われる。
21	ゆうゆう四宮館周辺道路を見た場合、信号機がない交差点が散見される。今後、鉄道連続立体の取組が進むなどすると、踏切が無くなるので、交通量の増加が心配。交通安全の観点からも高齢者への配慮は必要。
22	このような意見交換ができて良かった。